

新年を迎えて

川棚高等学校長 畑野 公昭

年が新たまり、2021年、令和3年となりました。本年は、川棚高校が創立80周年を迎える年になります。生徒、教職員がともに力を合わせて、新たな息吹が生み出される1年にしたいと考えています。地域、保護者、同窓生の方々にも、あたたかいまなざしでご支援を賜れば幸いです。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

以下、3学期の始業式（校内放送）で話をした概要です。

年新た 心新たに つつしみて

岩手県出身の俳人、山口青邨(せいそん)の俳句です。

青邨は新年に心機一転、この一年をどう過ごそうかと思いを巡らす態度を「つつしみて」という言葉で表現しました。

「つつしむ」には、注意深く気を配る態度の「慎」、うやうやしくかきこまるという意味の「謹」という漢字を当てることができそうです。「つつしむ」という言葉からは、この一年をどう過ごすのか、威儀を正し、誠実に、心静かに今の自分を見つめ、より確かな一歩を踏み出そうという気概が読み取れます。皆さんもぜひこの一年、何にどう取り組むのか、しっかりと思いを馳せてみてください。

私が、皆さんにぜひ取り組んでほしいことは、自分を伸ばす芽がどこに出てくるかをつかみ、その出てきた芽を、最大限育ててほしいということです。すでに種はまかれていると思いますが、芽が出るまでには時間がかかることもあります。それまで、水をやり続けるところに、人の我慢強さ、粘り強さが試されると思います。

自分を伸ばす道中で待ち受ける困難には、ひるむことなく挑戦してほしいと思います。挑戦には失敗がつきものですが、失敗はより大きい成功の足場です。人目を気にして失敗を避けるだけでは、大きな成功は望めません。

集団の底力は互いの失敗を許容し、支え合い、励まし合うことにあります。お互いが気持ちよく挨拶を交わす、相手やメンバーのことをよく理解しようと努力する、節度を守る、さらに失敗やミスを補い合う、それがしっかりと保っている集団が、自分の伸ばしたいことに思い切り挑戦するための環境です。そのような環境を川棚高校の皆さんと一緒に作っていきましょう。

令和三年が、川高生にとって精一杯自分を伸ばし、力強くたくましく成長するとともに、お互いがよりよい絆を結び、社会に、世界に大きく飛躍することを期待したいと思います。